

基盤地図情報作成検査ツール バージョン 6.0.106 更新記録

2012/03/23
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

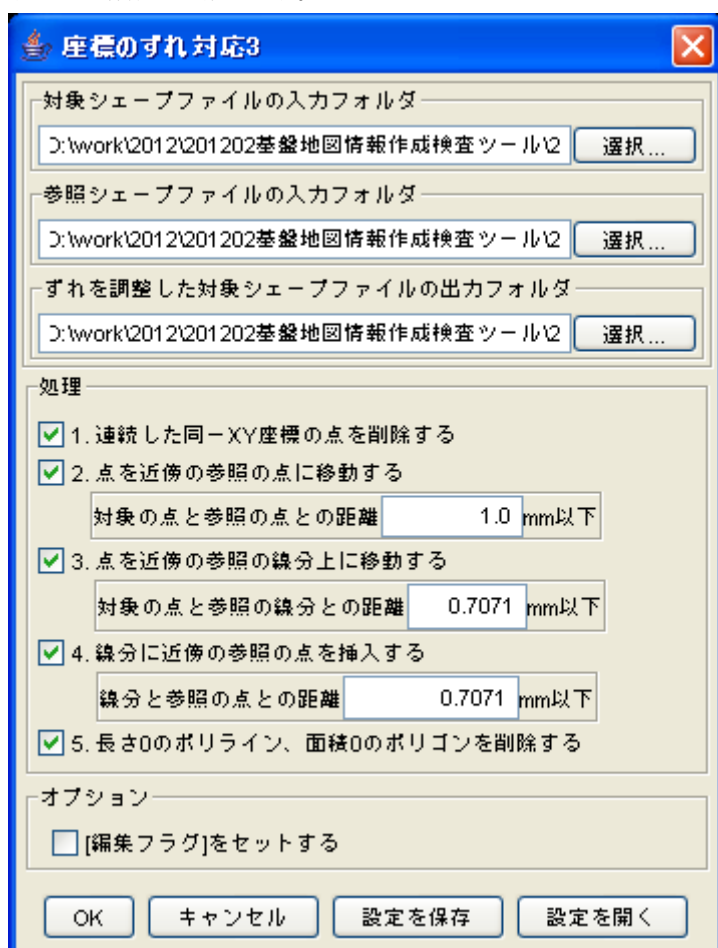
1. 座標のずれ対応 3

新メニュー[一括処理]-[座標のずれ対応 3]を追加しました。以下、説明書から抜粋です。

メニュー「DLD-DEM-XML 作成」にオプション「id, X, Y, Z, A」を追加し、

上記メニュー[座標のずれ対応 2]と同じ処理内容ですが、対象と参照のシェープファイルについてフォルダを指定して実行します。座標を調整したシェープファイルは、別のフォルダに保存します。

既存の基盤地図情報の XML をシェープファイルに変換し、隣接する地域との整合を取った後、メニュー[基盤地図情報]-[XML ファイルへ変換 2]で XML ファイルに変換する前に、シェープファイルに生じた座標の微小なずれを元に戻すために作成した機能です。



対象シェープファイルの入力フォルダ

ずれの調整を行うシェープファイルのフォルダです。

参照シェープファイルの入力フォルダ

編集前のシェープファイルを指定します。XML から変換した直後のシェープファイルのフォルダを指定します。

ずれを調整した対象シェープファイルの出力フォルダ

対象のシェープファイルの座標を調整したシェープファイルを保存します。

編集フラグをセットする

チェックを外しておきます。

対象のシェープファイルについて次の処理を行います。

- ① 対象のシェープファイルと同じ名前のシェープファイルを参照のフォルダで探します。
- ② 同じ名前のシェープファイルが参照になれば、そのまま出力フォルダに出力します。
- ③ 同じ名前のシェープファイルが参照にあれば、参照のシェープファイルの座標を基準に、対象のシェープファイルデータについて「処理」の項目の処理を行います。1 から 5 までの処理を 1 セットとし、座標の移動があれば、再度 1 セットを行い、座標の変更がなくなるまで 1 から 5 の処理を繰り返した後、出力フォルダに保存します。

(7) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.07831185932159246mm (-85824.810, -26548.960)
(8) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.054983681080146875mm (-85826.740, -26552.080)
(9) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.2604856017118431mm (-85814.490, -26559.680)
(10) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.04128996542067391mm (-85819.600, -26634.030)
(11) 建築物.shp: 近傍の点上に移動した点 距離=0.04527089302494377mm (-85799.630, -26626.540)

ガイド	レポート	チェックリスト1	チェックリスト2	確認リスト
-----	------	----------	----------	-------

2. XMLファイルへ変換 2

メニュー[基盤地図情報]-[XML ファイルへ変換 2]のレポートに次の内容を追加しました。

レポートパネルには、元データと異なる情報の内容と数を表示します。「同じ形状の図形がない」の数が多い場合、シェープファイルの形状の座標に微小なずれがある恐れがあります。メニュー[一括処理]-[座標のずれ対応 3]でチェックしてみてください。主題属性、例えば「図形区分」の異なるケースが多い場合、元データの属性値が空白になっていないか、メニュー[ツール]-[シェープ 地物リストアップ]で確認してみてください。

```
read D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_2_shp_matched\建築物.shp
read D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_0_shp_org\図形区分を空白から0へ建築物.shp
D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_0_shp_org\図形区分を空白から0へ建築物.shp 編集前
D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_3_xml_add_changed\更新データ_建築物001.xmlを保存しました
建築物 同じ形状の図形がない地物数=203
建築物 主題属性が異なると判定した地物数 「種別」 カウント=4
建築物 主題属性が異なると判定した地物数 「名称」 カウント=80
建築物 保存した地物の数=13875(元データのレコード数=41348)
read D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_2_shp_matched\建築物の外周線.shp
```

ガイド	レポート	チェックリスト1	チェックリスト2	確認リスト
-----	------	----------	----------	-------

```
read D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_2_shp_matched\建築物.shp
read D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_0_shp_org\建築物.shp
D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_0_shp_org\建築物.shp 編集前
D:\work\2012\201202基盤地図情報作成検査ツール\20120321XMLファイルへ変換2\all_3_xml_add_changed\更新データ_建築物001.xmlを保存しました
建築物 同じ形状の図形がない地物数=177
建築物 主題属性が異なると判定した地物数 「図形区分」 カウント=27464
建築物 主題属性が異なると判定した地物数 「種別」 カウント=4
建築物 主題属性が異なると判定した地物数 「名称」 カウント=80
建築物 保存した地物の数=41229(元データのレコード数=41348)
```

ガイド	レポート	チェックリスト1	チェックリスト2	確認リスト
-----	------	----------	----------	-------